

『猫にも愛を』

Vol. 1

執筆・編集・デザイン：菊田朱美（テノヒラ kiku）
イラスト：ただりえこ / 写真：たぬきふおと

犬や猫は動物愛護法で保護されており、虐待や遺棄の禁止、健康と安全の確保、飼い主に対しては他人への迷惑防止に努めるよう規定されています。しかし、多頭飼育崩壊や遺棄により野良犬・野良猫が増え、糞尿や騒音、いたずらなどの被害に悩む人が多くいるのが現状です。そこで今回は、人も動物も暮らしやすい町にしていきたいという思いから、猫の愛護活動を行っている菊田朱美さんに、野良猫問題の現状やその対策について執筆いただきました。

猫との歴史



野良猫との「闘い」は、もうずっと前から続いています。野良猫やペットとして飼えなくなった猫が、当たり前のように保健所に連れて行かれていた頃や、生まれた子猫を山や川に捨てに行っていた、その頃からずっと、ずっと続いているのです。

悪さをするから、邪魔だからと私たちは何十年もの間、身勝手に犬猫の命を奪ってきました。その結果、猫はいなくなったでしょう。今もまだ、野良猫は存在し、猫に対して良い感情を抱けない方々は、それによる糞尿被害や迷惑に、悩み、怒り、その度猫に嫌

悪感を重ねているはずです。それなのにそんな猫たちに餌を与えてる人がいると知ったら…。

なぜ猫が減らないのか



猫が減らない、その理由は猫の持つ驚異的な繁殖力にあります。猫は生まれた翌年には確実に繁殖できる体に成長（性成熟）し、年に何回も出産できる、繁殖効率がとても高い動物です。雌猫は生後4カ月から12カ月で出産が可能になり、年に2回から4回発情期があります。一度に4頭から8頭の子猫を生むので、放っておけば1年間に20頭から40頭、2年後には



猫が増えないようにする、 そのための 『地域猫活動』



80頭以上に殖えることがあります。猫は本能に従って妊娠・出産するだけで、自分で繁殖をコントロールすることはできません。

欠な活動です。猫は警戒心が強く、避妊去勢手術をするために捕獲しようと思っても簡単に捕まえることはできません。猫の数を把握し、短期間で全頭のTNR(※次頁で詳しく説明しています)をしようと思ったら、この「餌やり」が重要になります。「餌やり」を通して手術後も猫を管理し、未手術の猫がいらないか、新しく猫が捨てられていないかを監視することができ、繁殖の予防にもなるのです。「餌やり」なしには、地域猫活動の成功はありません。

地域猫活動とは、野良猫を地域住民が協力して適切に管理し、最終的には飼い主のいない猫をなくしていくことを目的とした活動です。この活動を行っていくうえで、『野良猫に餌をやる』行為は猫の現状を把握しておくために必要不可

ただ、時間や場所を決めず、単に餌をバラまく、いわゆる「迷惑な餌やり行為」があることも知っておかなければなりません。後者の場合は、猫の数も把握できず、避妊去勢手術もできず、残った餌で周りは汚れ、猫は増え続け、糞尿の臭いで近隣住民に迷惑をかけ

てしまいます。そうすると猫は「嫌われ者」になってしまうのです。猫が管理され、増えることも迷惑をかけることもなくなって初めて、『猫と人が共生できる町』になるのです。

猫が 苦手 嫌い という方へ



地域猫活動は猫を増やすための活動ではありません。猫が苦手という方にも、猫の過剰な繁殖の抑止に繋がる意味のある活動です。ただ、猫も生き物です。思い通りにいかないことも多く、時間を必要とする場合もあります。そんなときもどうか、温かくこの活動を見守っていただければと思います。



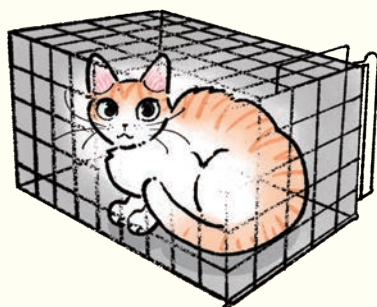
野良猫を増やさないために できること

～TNR ってご存じですか？～

猫を増やさず、地域のトラブルを減らすための取り組みです。

🐱 TNR 活動とは

T (Trap) = 捕まえる



N (Neuter) =
避妊去勢手術をする



R (Return) =
元の場所に戻る



野良猫が増えないようにし、安心して暮らせる地域を目指します。

🐱 耳のVカットは「もう増えません」の印

手術を終えた猫たちは耳をV字にカットします。
この耳のことを「桜耳」^{さくらみみ}、桜耳になった猫たちは
「桜ネコ」^{さくら}と呼ばれ見守られながら暮らします。
これで無駄な捕獲や手術を避けることもできます。



手術している間に
カットするから
痛くないよ！

🐱 元の場所に戻す利点

追い出しても他の猫が来てしまう
ので、子猫を産む事がなくなった
猫たちにいてもらった方が管理し
やすいのです。外で暮らす猫の寿
命は4年ほどと言われ、徐々に数
は減っていきます。また、発情期もなくなる
ため、鳴き声やマーキ
ングなどの問題行動も
少なくなります。



🐱 地域の協力が必要。

この活動は地域の方々の理解と協
力なしでは成り立ちません。この
活動を温かく見守っていただけれ
ばと思います。

活動のお手伝いさんを
募集してます！





INTERVIEW

『愛南地域猫』として活動している 國松芽生さんにお話を伺いました。



- 愛南地域猫 -
國松 芽生
Mei Kunimatsu

愛南町で地域猫活動を始めたきっかけを教えてください。

始まりは宿毛市の『おおしまちいきねこ』から譲り受けた2匹の保護猫です。単純に「なぜ、愛南町にはこういった取り組みがないんだろう？」と思ったのがきっかけでした。それから猫のことを気にかけるようになったのですが、そうすると野良猫に困っている人が多いことを知り、活動をスタートさせました。

『地域猫活動』と『保護猫活動』の違いは何ですか？

『保護猫活動』は、野良猫を保護し、人に慣れさせ、医療を受けさせて里親さんに「譲渡すること」がメインです。『地域猫活動』は「今、その場所で生きている猫たちと共に暮らしていく」ための取り組みです。具体的には野良猫の実態調査とTNR、その後の猫のお世話や管理などです。ほかにも、啓発活動や子猫の里親探しなど多岐にわたります。

本当は保護活動がしたい。でも、現状では地域猫活動が精一杯です。

活動には多くの費用がかかると思うのですが、財源の確保はどうされていますか？

皆さまからの募金や譲渡の際にいただく譲渡費用が主な財源です。ですが、始めたばかりの活動で認知度も低いため、募金は多くはありません。なので、私も含め個人ボランティアさんが自腹でまかなっ

ているというのが実情です。目の前の命と野良猫による被害に困っている人が少なくなれば…という思いで、活動を続けています。この活動を継続・拡大していくためには、皆さまからのご支援が欠かせません。

活動をはじめてよかったと思うこと、反対に大変だと思うことはありますか？

猫のトラブルを解決して地域の方々に「ありがとう」と声をかけてもらったときは、やってよかったなと思います。また、譲渡した猫が幸せそうに暮らしている姿を見たり、活動に興味を持って「何かできることない？」と声をかけてくれる方が増えてきたことも、励みになっています。

大変なことは何よりも、費用の捻出です。また、一部の心無い餌やりを行う人がいることで誤解を受けたり、活動への理解が広まっていないためトラブルになることもあり、それによって思うように活動が進まないときは歯痒い気持ちになります。また、今は一緒に活動してくれる人も少ないため、活動が限られ悔しい思いをすることが多いです。

一緒に活動してくれるお手伝いさんを募集していると伺いましたが？

人手が足りず、保護したくてもできない猫たちもたくさんいます。一時的な猫の預かりや、通院の代行、TNRのための捕獲や手術当日のお手伝いなど、空いた時間のできることだけで構いませんので、活動に賛同していただける方がおられましたら、お問い合わせください。

『愛南地域猫』の情報は Instagram から



ID: ainan_chiikineko



活動の報告や里親募集の詳細を投稿しています！

活動のご支援、お手伝いの詳細は Instagram のハイライトをご覧ください。お問い合わせは DM、もしくは公式 LINE にてお気軽にどうぞ。

※野良猫に関する依頼は現在、相談のみ受け付けております。

皆さまからの温かいご支援、協力のお問い合わせをお待ちしています。